

「東京駅、復原 - 100年前の姿を100年後につなぐために」

当社JVは、2007年4月から東京駅丸の内駅舎の保存・復原工事を担当してまいりましたが、このたび完成し、2012年10月1日にグランドオープンいたしました。

このプロジェクトは、国の重要文化財である丸の内駅舎を1914年創建当時の美しい姿で未来へ引き継ぐために、震災により焼失した“赤レンガ駅舎”の3階部分やシンボルであった南北のドーム等を復原、外観のみならず、ドーム内部の装飾や彫刻も創建時の造形に甦らせた工事です。

復原にあたっては、現代の最先端建築技術だけでなく、漆喰や擬石塗等の左官、銅板葺等の特殊技能を採用しました。建物だけでなく、過去の大切な伝統技術を未来につなぐことも、このプロジェクトの重要な役割です。



創建時の南ドーム



工事着工前の南ドーム



復原後の南ドーム

地上の復原工事と並行して、地下においては、巨大地震にも耐えられる安全な建築物として未来へ継承するために、免震化工事を行いました。全長約335m、総重量約7万トンもの駅舎をいちど鉄骨支柱で仮受けし、建物全体をジャッキにて持ち上げ、地下部分を掘削、これまで建物を支えていた1万本以上の松杭を撤去。新しい地下躯体を構築し、その間に免震装置として352台のアイソレータ（免震ゴム）と158台のオイルダンパーを設置、アイソレータに建物の荷重を移動したこの工事は、我が国最大規模の免震レトロフィット工事となりました。

東京駅は、1日の乗車人員数が約40万人の巨大ターミナル駅。工事期間約5年の間、その機能を1日も止めることなく、ご利用になるお客様の安全を第一に、24時間体制で工事を行ってまいりました。駅を利用される皆様の足下で「居ながら®免震」の大工事が進められていたわけです。

創建当時への復原と、駅舎全体の免震化という世紀の大プロジェクトは、携わった延べ約78万人もの関係者ひとりひとりの地道な作業の積み重ねと、すべての人々の知恵と努力と熱い想い―「100年前の姿を100年後につなぐために」―の結晶です。

新しいものを作るだけでなく、価値ある建物を保存し、未来につないでゆくことも、建設会社としての誇り。当社ではこれからも、100年先を見据えて事業を続けてまいります。